

じ ぶん いのち じ ぶん まも

自分の命は自分で守る！

「セルフレスキュー」で自然を楽しもう



みず べ あんぜんきょうしつ
B&G 水辺の安全教室

みんなが笑顔になる「水辺」



あたたかい日差しの春や、あつーい夏には、
つい水辺に行きたくなりませんか？

あたたかい季節になると、池や川にはいろいろな生き物が出て来ますし、
水泳が苦手でも、“水遊びは大好き！”なんて人もいるかもしれません。
プールだけでなく、水の上を進む乗り物や、
マスクをつけて水中を観察する「シュノーケリング」など、色々な遊びがあります。

「水にさわりたい、水に入りたい」という気持ちは
みんなが持っているのかも知れません。

えがお みずべ
みんなが笑顔になる「水辺」



水の事故は あなたの身近で起きています



そんな楽しい水辺ですが、「水の事故(水難事故)」といって、溺れて人がなくなる事故が、毎年起きています。

川で遊んでいた中学生が溺れて、1人がなくなった事故や(※写真左 2013年7月、神奈川県)、夜釣りをしていた小学生が、お父さんと一緒に水に落ちてしまい、2人ともなくなった事故もあります。(※写真右2017年9月、東京都)

水の事故は、波の高い海や、流れの強い川で起きるものと考えられるかも知れませんが、皆さんの身近なところでも起きています。

【指導する方へ「水難事故の発生状況」】

小中学生の水難事故は、過去10年間の平均で年間200回以上発生し、年間50人以上の死者・行方不明者が出ています。水難事故は、事故の件数としては少ないように見えますが、実に5人に1人が命を落とす実情があります。

(※2007-2016年度の平均。出典：警察庁生活安全局地域課「水難の概況」より)

みず じこ 水の事故は

み ぢか お
あなたの身近で起きています



しょうちゅうがくせい みず じこ ねん かい いじょうはっせい
小中学生の水の事故は年に 200 回以上発生！

どこが危ない？



ここからは、皆さん自分のことだと思って考えてみましょう。

ある日、アンくとドリーくんは、放課後に2人で写真の池へ魚とりにきました。

「ここは人がいないし、たくさん魚がとれるんだよな～、楽しみ！」。

さて、問題です。

2人が来た池の写真を見て、どこが危ないか考えてみてください。(答えてもらっても良い)

【指導する方へ「危険な場所・状況を推測する」】

※実際は場所ごとに条件が異なります。意見を出し合いましょう。

【回答例】

- ・周りにフェンスがない
- ・木があって周りから見えない
- ・水に落ちたら登れない
- ・深くて足がつかない
- ・コケが生えていてすべりそう

さあ、2人は無事に魚とりができるのでしょうか？

あぶ どこが危ない？



アンくん

ドリーくん

友だちが水に落ちた！ あなたならどうする？

ツルっ、ドボン！ なんと！アンくんが滑って水に落ちてしまいました！
水泳の得意なアン君ですが、溺れそう！ 大ピンチです！！
さて問題です。陸の上にいるドリーくんは、どうしたら良いでしょうか？
4つの方法から選んでみて下さい。

- ①「助けに自分が飛び込む」。
- ②「手を伸ばしてアンくんの手をつかむ」。
- ③「空にした水筒やペットボトルなど、何か浮くものを投げる」。
- ④「大声で近くにいる人を呼んだり、電話で助けを呼ぶ」。

※川や池、沼では「119番の救急隊」、海なら「118番の海上保安庁」です
さあ、選びましたか？

【指導する方へ「救助する立場で考える」】

※能力や状況によって「できること」「できないこと」があります。意見を出し合いましょう。

【回答例】

- ・飛び込んで助ける
- ・手を伸ばしてつかまらせる
- ・大声を出して人に知らせる
- ・大人を探す
- ・携帯電話等で119番に電話する
- ・持っている水筒など、浮くものを投げる



とも みず お
友だちが水に落ちた！

あなたならどうする？



たす と こ
① 助けに飛び込む



て
② 手をつかむ



う な
③ 浮くものを投げる



たす よ
④ 助けを呼ぶ



助けられたかな？

ここから先をご覧になりたい方は、
請求フォームよりお申込みください。



どうなったでしょうか？

①「自分が飛び込んだ」

⇒「溺れる者は藁をもつかむ」ということわざがあります。

ドリーくんは、しがみつかれて自分も溺れてしまいました・・・。

②「手を伸ばしてアンの手をつかんだ」

⇒水に落ちた人は、助かるためにすごい力で手を引きます。

引きずり込まれてドリーくんも落ちてしまいます。

③「何か浮くものを投げた」。

⇒水に浮けるものをつかめれば、アンは助かりそうです。

つかまって!と声かけすることも大事ですね。

④「電話して助けを呼んだ」

⇒正しい方法ですが、救急隊を呼んだ場合、到着には8分以上かかるそうです。

アンは8分間、浮いて待っていなければなりませんね。

この4つの方法の中で考えると、まずは浮くものを投げて、次に救急電話をかけるか大人を呼ぶのがよさそうです。

【指導する方へ「子供が子供を救助できるか？」】

B & Gの「水辺の安全プログラム」では、陸上にいる子供が救助を行うことを推奨していません。自分の力、相手や現場の状況を把握して救助活動を行うには、ケースバイケースの判断が必要なためです。

救助の基本「まず救助者とその身の安全を確保する」ことをご理解ください。

【指導する方へ「119番通報の要点」】

①火事か救急か ②事故の起こっている場所 ③事故の状況 ④通報者の名前と連絡先